

## 令和5年度 第1回稚内市環境審議会 議事録

- 1 日時：令和5年10月25日（水） 16：00～17：15
- 2 場所：稚内市役所3階 市長会議室
- 3 委員出席状況：委員12名中、8名出席
- 4 会議の概要
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱状交付
  - (3) 副市長挨拶
  - (4) 審議会委員、事務局紹介
  - (5) 役員選出
  - (6) 議題
    - ① 稚内市環境基本計画年次報告について
    - ② 稚内市地球温暖化対策実行計画実施状況について
  - (7) その他
  - (8) 閉会

《 議事概要 》

① 稚内市環境基本計画年次報告について

－資料説明－

◇意見・質問

<委員>

第2次稚内市環境基本計画に外来生物種が記載されているが、資料にあるようにアライグマが特定外来種の駆除対象となっており、生物多様性の保全観点で何かあれば教えてください。101種ある中からアライグマが対象となっている理由、もちろん、すべての外来生物種に対応できれば良いのですが、労力などの問題もあり、絞っているのかなど。

<事務局>

アライグマは、特に農村部の地域において出没が多く、生息数が増加しており、とくに農業被害が多いこともあって、駆除を行っています。

<会長>

資料内の数値で、人口が減るとごみの量も当然減ると思いますが、その影響はどのように出ているか、気になります。

<事務局>

人口が減っていますので、ごみの総量としては基本的には減っていく傾向です。資料の値は、そのごみの総量を人口で割り返したものを1人当たりのごみの量としていますので、人口が減ったからこちらの数値が下がるというものではなく、ごみを排出する個人それぞれの量が減った結果、ここの数値が下がっていくものになっています。

## <委員>

人口が減っている中で、1人あたりのごみの排出量がなぜ多くなっているか。それは、ごみの排出量で取り扱うごみが、単なるごみでなく、災害で発生したごみや鹿などが含まれている。ごみの排出量は、÷人口なので、その分だけ、排出量が下がらず、これが稚内市の1人あたりのごみの排出量が多い原因だと思う。

これからは、それらのごみをどのように処分するかが肝心だと思う。海外からの漂着ごみも含まれており、人口が減っても人口割りで指標が算出されると思うので。

## <事務局>

そのほか、ごみの中にはまだまだ分別できるようなものがたくさん入っていて、一般ごみ袋で言うと、本来分別できるごみが3分の1程度含まれている状態です。市民の意識の中には、ごみ袋に入れてしまえば何でも処分できる場所があって、それが本市のごみ減量化が進まない大きな原因になっているのかなと考えています。

また、コロナ禍においてはなかなか地域に出向き、説明を行うことが難しかったのですが、これからは積極的に地域に入って、町内会単位などの説明会を行いながら、ごみの減量化を進めていくことを考えています。そういった意味では、この数値はまだまだ減量できる数値と捉えていただきたい。

そういった中、努力を重ね、市民理解を得ながら、ごみの減量化に努めていきたい。今報告の数値は最大限努力できた結果ではなく、分別の取り組みなどまだ改善できる値であると捉えていただきたい。

## <会長>

ご発言のように人口に比例する部分のごみの種類と比例しない部分を分けることが必要だと思います。難しいことだと思いますが、人口に比例するごみの量を削減することが取り組みの方向性だと思うので、今後、ご努力いただきたいという趣旨でした。

他に、ご意見、ご質問ございませんか。

<委員>

廃棄物計画は環境審議会で審議されるものか。

稚内市産業廃棄物最終処分場が閉鎖になったが、急に1、2か月で廃止になった。これは本審議会で触れられる話ではないのか。当時、審議会の委員だったが聞いていない。審議会では当然出てくるべきであり、本審議会が形だけになっているのでは。

<事務局>

令和元年に廃棄物処分場が廃止となり、これまでそこに捨てられていたものをどこに持ってくるのか、事業者は困惑し、そこに対して市として色々支援をしていました。

この審議会の中で検討されるべきものか検討していきます。

## ② 稚内市地球温暖化対策実行計画実施状況について

—資料説明—

<委員>

二酸化炭素排出量が2013年より2020年に上がっているものとして、農林水産業と貨物自動車がありますが、この要因はわかりますか？

<事務局>

貨物自動車は、コロナ禍において在宅勤務が多くなり、通販などの宅配需要が高まり増加したものと考えています。農林水産業の増加要因は判断が難しいです。

<委員>

このデータはどこから得られるものですか？

<事務局>

環境省が日本全体で排出される CO2 を部門別に分け、人口などの数値で割り返し、市町村単位で公表されています。稚内市独自で二酸化炭素排出量を調査することが非効率であるため、環境省が公表する数値を参考としています。

このため、例えば首都圏で排出量が大きくなるとそれが按分されてしまうため、稚内市も増加したように見えますが、実際の増減に繋がるものではないとご理解いただきたい。

<会長>

新しい庁舎が出来た際にどのくらいの二酸化炭素の排出量を削減することができるのか？

<事務局>

今、具体的な数値を持ち合わせておらず、当然、新しい庁舎になるため、設計段階から地中熱の利用、断熱などで二酸化炭素排出量を抑制している。詳しくは改めて説明させていただきます。

<会長>

庁舎建て替えに色々なご意見はあるでしょうが、脱炭素といった面でのPRもあると良いと思います。ほかに発言はありますか？

<委員>

「令和4年度 施設分類別の基準年（平成25年度）との排出量比較」は、稚内市独自のものですか？

<事務局>

はい。

<委員>

例えば、全く同じように比較はできないとは思いますが、稚内市としての努力量というか、国全体ではこういう風に落ちてきている中で、稚内市もこういう風に示せますという切口で説明できると良いのではないのでしょうか。

国の指標では、業種などの部門で分けられており、一方で、稚内市は行政施設で分けられています。業種ごとに分けることはあまり想定できないと思いますが、施設分類における二酸化炭素排出量の合計が▲18.5%になっています。稚内市の部門別では、▲19.2%と大きく努力して見える。稚内市の努力量をどうやって見るか、全国的な傾向と比較して見るのも良いかと思います。

<事務局>

地方公共団体が排出する量は、国の分類によると民生部門にあたります。例えば、国が示す民生部門が▲25%の場合に稚内市が▲18.2%と乖離があれば、全国と比べ削減率が低いので、その要因は何かを分析していくことも、委員がおっしゃったとおりだと思います。

<事務局>

稚内市地球温暖化対策実行計画の改定作業を行う必要があります、一度や二度、委員の皆様が集まって機会があります。次回開催は1月又は2月です。細かなスケジュールは追ってご連絡します。

<委員>

鹿や熊の処理について、なにか対応はありますか。

<事務局>

鹿が頻繁に市内に出るようになり、それら进行处理するための処理施設は、民間で建設できないか検討しており、それが難しい場合は公共として行うかどうかを現在議論しています。

<委員>

風力発電のガイドラインに則って風車が建設されているが、山を荒らすことによって、鹿や熊が出てくるものが増えてきているのでは。逆に言えば処理の仕方なのか、何か熊を逃がす、鹿を何とかする、そのガイドラインがこれから先必要ではないか。決して、風力発電の開発が闇雲に進んでいるわけではないと思うが。

<委員>

熊などの出没が多いのは風車によるものと考える市民もいると思います。

<事務局>

熊の出没は全国各地で報道されていますが、本当に風車の影響によるものなのか、温暖化によって木の実が育たず、餌を求めて人里に出てきているという見解もあるので、状況を見極めていきたいと考えています。

以上